

0. 要旨

本事業は、バングラデシュの小規模・零細農家が抱える農業投入資機材への資金アクセスの制約や農業技術の不足の問題への対処として、小規模・零細農家への農業生産性向上に資するツーステップローン供与、及び借入農家に対する農業技術指導を実施することにより、バングラデシュ全土において農業金融に係る資金仲介機能の円滑化、小規模・零細農家の農業生産性の向上、生産作物の多様化を図り、もって農業金融の深化及び農業セクターの発展に寄与することを目的に実施された。

本事業の実施は、バングラデシュの小規模・零細農家の農業生産性向上と生産作物多様化の推進に向けた政策、開発ニーズ、日本の開発協力方針と十分に合致しており、妥当性・整合性は高い。本事業のアウトプットである小規模・零細農家に対する農業融資、及びコンサルティング・サービスとして本事業の実施支援、農業技術指導に係る能力向上支援等が計画どおり行われた。事業費及び事業期間ともに計画内に収まったため、効率性は非常に高い。本事業が目的とした、小規模・零細農家向け融資と、農業の生産性向上、生産作物の多様化に資する農業技術指導の組み合わせによる事業効果の発現は、限定的である。事業効果の実績は主に、農業融資の提供によるものであり、農業技術指導の効果は十分なものはなっておらず、生産作物の多様化の達成度は低い。以上より、有効性・インパクトはやや低い。本事業の運営・維持管理には、農業技術指導に係る技術に一部軽微な問題はあるが、改善・解決の見通しが高いと言える。本事業によって発現した効果の持続性は高い。

以上より、本事業の評価は高いといえる。

1. 事業の概要



事業位置図（バングラデシュ全土）
（出所：外部評価者）



融資を受けた小規模農家の野菜栽培の様子
（2024 年 5 月、評価者撮影）

1.1 事業の背景

農業はバングラデシュの重要産業のひとつであり、本事業実施前の2012年時点では、就業人口の約45%及びGDPの約17%を占めていた。また、灌漑用井戸の普及等により耕作地面積は国土の約50%まで拡大、年間作付け回数の増加により耕地利用率は190%に達していた。一方で、人口密度の高さに起因して一人当たり耕作地面積が限定されており、バングラデシュの農業生産者の大部分を小規模・零細農家が占めている。小規模・零細農家は、慣例的な低投入の伝統的農法を続けていたが、3.1.1 妥当性の項に後述のとおり、高収量品種や市場価値の高い作物栽培の導入促進を通して、限られた可耕地の農業生産性、生産作物の多様性の向上を図る必要があった。

小規模・零細農家は、農業投入資機材への資金アクセスの制約や農業技術の不足等により、新規作物栽培、高収量品種、農業機材等の導入が困難であった。農村における金融商品の提供機関としては従来、マイクロファイナンス機関¹が重要な役割を果たしているが、家計や小商業、家内工業などへの補完的な小口融資が中心であり、農業融資として、作付け期・収穫期・栽培コスト等の農業生産サイクル（審査期間、融資額、返済方法等）のニーズに適応したものではなかった。

バングラデシュ政府は中央銀行主導のもと、農業融資へのアクセスの改善を図っていた。本事業は、小規模・零細農家の利用率の高いマイクロファイナンス機関の融資において、農業の資金サイクルに適した融資商品を農業技術指導とともに導入することにより、農業金融スキームの面的・量的広がりを支援することを目的として実施された。

1.2 事業概要

バングラデシュ全土において、バングラデシュ中央銀行から参加マイクロファイナンス機関（Participating Microfinance Institutions：以下、「PMFIs」という。）²への転貸を介した小規模・零細農家への農業生産性向上に資するツーステップローン供与、及び借入農家に対する農業技術指導を実施することにより、農業金融に係る資金仲介機能の円滑化、小規模・零細農家の農業生産性の向上、生産作物の多様化を図り、もって農業金融の深化及び農業セクターの発展に寄与する。

円借款承諾額/実行額	9,930 百万円 / 9,675 百万円	
交換公文締結/借款契約調印	2014 年 5 月 / 2014 年 6 月	
借款契約条件	金利	0.01%
	返済	40 年

¹ バングラデシュのマイクロファイナンス提供機関は、次のとおり分類される：1) グラミン銀行（マイクロファイナンス業務を行う政府系特殊銀行）、2) マイクロファイナンス規制局（Microcredit Regulatory Authority: MRA）にマイクロファイナンス業務を認可された NGO、3) 国有銀行や民間商業銀行による実施。

² PMFIs として、MRA にマイクロファイナンス業務を認可された NGO 11 機関が、本事業の農業融資・農業技術指導の業務を行っている。

	(うち据置 10 年)	
	調達条件	アンタイド
借入人 実施機関 運営維持管理機関	バングラデシュ人民共和国政府 財務省金融機関局 バングラデシュ中央銀行	
事業完成	2021 年 7 月（貸付実行完了）	
事業対象地域	バングラデシュ全土	
本体契約 (10 億円以上のみ記載)	該当なし	
コンサルタント契約 (1 億円以上のみ記載)	- Services and Solutions International Ltd. (バングラデシュ) - AFC Consultants International GmbH (ドイツ) - Akademie Deutscher Genossenschaften e.V. (ドイツ)	
関連調査	JICA「バングラデシュ国農業金融に係る情報収集・確認調査」（2014 年）	
関連事業	JICA 技術協力「マルチステークホルダー連携による小規模園芸農家のための市場志向型農業振興プロジェクト」（2021 年 8 月～2025 年 12 月）	

2. 調査の概要

2.1 外部評価者

高木秀行（EY 新日本有限責任監査法人）

2.2 調査期間

今回の事後評価にあたっては、以下のとおり調査を実施した。

調査期間：2023 年 12 月～2025 年 1 月

現地調査：2024 年 4 月 19 日～5 月 24 日、2024 年 9 月 13 日～9 月 20 日

3. 評価結果（レーティング：B³）

3.1 妥当性・整合性（レーティング：③⁴）

3.1.1 妥当性（レーティング：③）

3.1.1.1 開発政策との整合性

本事業の審査時、バングラデシュの国家開発計画である第 6 次 5 ヶ年計画（2011 年度～2015 年度）は、地域格差の解消と均衡のとれた発展及び食料安全保障を確保することを目指し、農業生産性向上と生産作物多様化の推進を掲げていた。具体的戦略として、冬季（11 月～2 月）における米以外の作物の作付け推奨、耕地条件に適した作物栽培の推進、高収量種子、ストレス（塩、乾燥、湛水性）耐性の高い種子の活用推進、表

³ A：「非常に高い」、B：「高い」、C：「一部課題がある」、D：「低い」

⁴ ④：「非常に高い」、③：「高い」、②：「やや低い」、①：「低い」

流水灌漑の促進、農家の技術不足に起因する収量ギャップの解消を挙げていた。国家農業政策（2009 年）は、第 6 次 5 ヶ年計画とともに、国民の収入向上及び食料安全保障を達成するため、農業生産性向上に重点を置きつつ高収量品種の研究開発・導入促進、農家の技術改善、灌漑導入による作付け回数の増加、耕地条件に応じた作付けを推進し、農業生産性向上と生産作物多様化を図るとしていた。

事後評価時点の第 8 次 5 ヶ年計画（2020 年度～2025 年度）の農業セクター開発戦略は引き続き、食料安全保障の確保が掲げられていることに加え、気候変動に強い生産に向けた生産作物の多様化、小規模農家のための融資における与信の緩和等が明記されている。国家農業政策（2018 年）においても、安全で収益性のある農業及び食料安全保障を目標に掲げ、農家の生産性向上、収入増加、生産作物の多様化に加え、マーケティングシステムの改善等を通じて、人々の経済社会状況の改善を実現するとしている。

本事業の運営維持管理機関であるバングラデシュ中央銀行では、審査時の「農業・農村金融政策計画」（2012 年度）において、マイクロファイナンス機関と連携し、農業の生産性向上を図るとしていた。事後評価時点の「農業・農村金融政策プログラム」において引き続き、農業金融に係る政策が継続されており、2024 年度の同プログラムでは農業融資の更なる増加を計画している。

以上より、本事業は事前事後ともに、バングラデシュの国家政策及びセクター開発政策における農業生産性向上と生産作物多様化の推進、これらの実現に向けたバングラデシュ中央銀行の農業・農村金融政策プログラムと合致している。

3.1.1.2 開発ニーズとの整合性

バングラデシュでは人口密度の高さに起因して一人当たり耕作地面積が限定されており、農家の大部分を小規模・零細農家が占めている。小規模・零細農家の農業収益を向上するためには、単位面積当たりの収穫量・収益を上げることが必要であり、そのためには農家が農業資材や設備等に投資を行う必要がある。本事業の審査時、農業融資には需給ギャップが存在しており、バングラデシュ中央銀行の 2014 年時点の推計は、農業融資需要が約 2,900 億バングラデシュ・タカ（Bangladesh Taka : BDT）であったことに対し、農業融資実績は約 1,200 億 BDT であった。

本事業の審査時から事後評価時点にかけて、農家数は全体として増加しており、耕作地面積が小さい小規模・零細農家も増加を続けている。

表 1. 農家区分⁵別農家数の事前・事後比較

(単位：千世帯)

	事業実施前		事業実施時点		事後評価時点
	2008 年		2019 年		2023 年
土地無農家	13,513	48%	18,671	53%	データなし
小規模・零細農家	12,266	44%	15,481	44%	
中規模農家	2,136	8%	1,299	4%	
大規模農家	234	1%	101	0%	
合計	28,150	100%	35,552	100%	

出所：JICA 提供資料、バングラデシュ統計局 AGRICULTURE CENSUS 2019⁶、

注：事後評価時点については、バングラデシュ統計局によるセンサスの実施はなく、バングラデシュ中央銀行においても調査は実施されていない。

農業融資額は、表 2 に示すとおり、本事業の審査時から事後評価時にかけて大幅に増加している。特にマイクロファイナンス機関では、この 10 年間に農業融資額が 90 倍以上も増加しており、農家にとって主要な金融機関としての位置付けとなっている。

表 2. 農業融資額の事前・事後比較

(単位：百万 BDT)

	審査時		事後評価時	
	2013 年		2023 年	
国営銀行	83,138	50%	131,048	8%
民間銀行	63,487	38%	197,251	12%
マイクロファイナンス機関	13,200	8%	1,248,180	79%
農村開発庁	5,952	4%	15,362	1%
合計	165,777	100%	1,591,841	100%

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供資料

以上より、本事業は事前事後ともに、小規模・零細農家向け融資が必要な状態であり、開発ニーズは高い。

3.1.1.3 事業計画やアプローチ等の適切さ

本事業の事業事前評価表に記載の「類似案件からの教訓」として、融資を提供するのみならず、各種の啓蒙活動・研修・助言等能力開発の徹底が、効果発現に重要であるとされていた。本事業の対応として、PMFIs は小規模・零細農家に融資するだけでなく、農業の生産性向上、生産作物の多様化に資する農業技術指導を併せて提供することが計画された。

⁵ バングラデシュの耕作面積別の農家分類：零細農家：0.05～0.49 エーカー、小規模農家：0.5～2.49 エーカー、中規模農家：2.5～7.49 エーカー、大規模農家：7.5 エーカー以上

⁶ バングラデシュ統計局 AGRICULTURE CENSUS 2019

<https://bbs.portal.gov.bd/site/page/6b4c2697-452b-4bc6-9ee2-1fb5e0fc66c0/->

3.1.2 整合性（レーティング：②）

3.1.2.1 日本の開発協力方針との整合性

本事業の審査時、日本政府の対バングラデシュ国別援助方針（2012年）では、農業・農村開発課題への支援策として、農業生産性の向上、生産作物の多様化及び高付加価値化を通じた食料安全保障の強化に重点を置いており、本事業は審査時の日本の援助政策と整合していた。

3.1.2.2 内的整合性

JICA は、「マルチステークホルダー連携による小規模園芸農家のための市場志向型農業振興プロジェクト（Bangla-SHEP）」を、2021年8月～2025年12月の予定期間で実施している。当該プロジェクトは、ダッカ、マイメンシン、ロングプール、ラジシャヒ各管区の園芸作物栽培に適する地域を対象に、市場志向型農業アプローチ⁷の実施体制確立及び実践による小規模農家の生活水準向上を目的としている。バングラデシュ中央銀行では、本事業（Small Sized Farmers Agricultural Financing Project：SMAP）と Bangla-SHEP の担当部署として、農業信用局（Agricultural Credit Department、以下「ACD」という。）に SMAP・Bangla-SHEP Section を設置し、これら JICA プロジェクトの管理・モニタリングを行っている。事後評価時点までに、これら2つの JICA の事業に具体的な相乗効果はないが、ACD は今後、Bangla-SHEP の実施機関である農業省農業普及局（Department of Agricultural Extension、以下「DAE」という。）との連携強化により、本事業の借入農家はより良い農業技術指導を受けることが期待できるとしている。

3.1.2.3 外的整合性

他の開発協力機関による農業セクターの事業として、本事業の実施期間に以下が実施されている。本事業と他の開発協力機関等による支援との具体的な調整/連携、相乗効果は特になかった。

- 国際農業開発基金（IFAD）：「農業産業化・企業化促進プロジェクト（2014年～2022年）」、後継案件「農村部零細企業変革プロジェクト（2019年～2025年）」（デンマーク国際開発庁（DANIDA）も参加）、「小規模農業競争力強化プロジェクト（2018年～2024年）」
- 世界銀行：「全国農業技術プログラム（フェーズ2）（2015年～2023年）」

本事業は、バングラデシュの開発政策及び開発ニーズと合致しており、日本の開発協力方針と整合している。以上より、妥当性・整合性は高い。

⁷ JICA がアフリカやアジアの国々で導入・実施している小規模園芸農家支援のアプローチ。野菜や果物を生産する農家に対し、「作って売る」から「売るために作る」への意識変革を起こし、営農スキルや栽培スキル向上によって農家の園芸所得向上を目指すもの。（出所：Bangla-SHEP の事業事前評価表 https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2020_1903799_1_s.pdf）

3.2 効率性（レーティング：④）

3.2.1 アウトプット

本事業は、裨益者である小規模・零細農家に対して農業融資と農業技術指導を同時提供するものであり、アウトプットとしては、①小規模・零細農家農業生産性向上、多様化振興融資及び、②コンサルティング・サービスが計画・実施された。いずれのアウトプットも、概ね計画どおり実施された。

1) 小規模・零細農家農業生産性向上、多様化振興融資

バングラデシュ中央銀行から PMFIs への転貸（ツーステップローン）を通じた、小規模・零細農家に対する農業生産性向上、生産作物多様化に資する活動への融資（サブローン）が行われた。融資条件は以下のとおり。

- ツーステップローン：BDT 建、金利は公定歩合以下、返済期間最長 2 年
- サブローン：BDT 建、金利 20%以下、返済期間は融資対象により 3 ヶ月～2 年（含む据置期間 1 ヶ月～半年）

融資対象・返済期間：農業資材（種子、肥料）は 3 ヶ月～2 年、設備投資資金（灌漑ポンプ等）は 3 か月～2 年、畜産は 3 ヶ月～2 年

PMFIs よりバングラデシュ中央銀行へ返済されたツーステップローンは、リボルビングファンド口座で管理され、同一条件で再度、PMFIs を介した小規模・零細農家向けサブローンとして活用されている。本事業ではリボルビングファンドを、事業期間も含め最低 15 年以上活用することが合意されている。2023 年 6 月までに、計 705 千件、38,880 百万 BDT の小規模・零細農家への農業融資が実施されている。

表 3. 小規模・零細農家向けサブローン件数の年次推移

（単位：千件）

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
年間融資件数	83	84	86	86	87	91	92	94
累計融資件数	83	167	253	339	427	519	611	705

表 4. 小規模・零細農家向けサブローン金額の年次推移

（単位：百万 BDT）

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
年間融資額	2,499	2,721	3,750	4,800	5,980	6,350	6,390	6,390
累計融資額	2,499	5,220	8,970	13,770	19,750	26,100	32,490	38,880

出所：表 3、4 とも、運営維持管理機関提供資料

2) コンサルティング・サービス

コンサルタントにより、本事業の実施支援、PMFIs 等の能力向上支援、及び中間モニタリングにおけるインパクト評価の実施支援等が実施された。各支援内容は以下のとおり。

- 事業実施支援：貸付管理及び資金管理の支援、融資業務運営ガイドライン作成支援等

- PMFIs 等の能力向上支援：バングラデシュ中央銀行職員の業務運営ガイドライン策定、農業技術普及に係る PMFIs 職員の能力強化等
- 事業進捗に係るモニタリング実施支援：ベースライン調査、事業完成時（貸付実行完了時点）のインパクト評価実施の支援

PMFIs は、様々な社会課題の解決に取り組む NGO であり、農業分野を活動対象としている NGO もあれば、そうではない NGO もある。本事業の農業技術指導に係る能力強化にあたり、多くの PMFIs では農業の専門性を有する人員の募集から始める必要があり、本事業を通じて、PMFIs では農業分野の学位を持つ人員確保が行われた。プロジェクト期間中のワークショップ、研修、セミナーなどを通じて、生産性の向上、近代的農業、生産作物の多様化、技術の普及、気象予測技術、海藻、花卉栽培などに関する PMFIs 職員の能力向上が図られた。また、PMFIs の農業技術能力強化のための、以下の研修資料が作成された。



図 1. 農業技術能力強化のために作成された研修資料

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供資料

3.2.2 インプット

（詳細は報告書最終頁の「主要計画/実績比較」参照）

3.2.2.1 事業費

事業費は、計画の 10,805 百万円に対し、実績が 9,798 百万円であり、計画内に収まった（計画比 91%）。バングラデシュ側事業費が計画を下回った要因は、Covid-19 パンデミックの影響により、業務運営ガイドラインよりも少ない投入人数となったためであった。

表 5. 事業費の計画・実績比較

（単位：百万円）

	計画			実績			計画比
	外貨	内貨	合計	外貨	内貨	合計	%
日本側	9,573	357	9,930	9,643	32	9,675	97
バングラデシュ側	3	872	875	—	123	123	14

	計画			実績			計画比
	外貨	内貨	合計	外貨	内貨	合計	%
合計	9,576	1,229	10,805	9,643	155	9,798	91

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供資料

3.2.2.2 事業期間

事業期間は、L/A 調印月から貸付実行完了月までの期間として、計画では 79 カ月（2014 年 6 月～2020 年 12 月）とされていた。実績は 88 カ月（2014 年 6 月～2021 年 9 月）であったが、2019 年末から始まった世界的な Covid-19 パンデミックの時期と重なっており、本事業においてもコンサルティング・サービスが約 10 カ月間の中断を余儀なくされた。当該影響を外部要因として考慮し、実質的な事業期間となる 78 カ月は計画内に収まったと判断している（計画比 99%）。

本事業は、事業費及び事業期間ともに計画内に収まった。以上より、効率性は非常に高い。

3.3 有効性・インパクト⁸（レーティング：②）

3.3.1 有効性

3.3.1.1 定量的効果（運用・効果指標）

本事業の農業融資に係る定量的効果指標は、融資回収率及び女性融資対象者の割合であり、いずれも目標値を達成している。他方、農業研修の受講延べ人数は、「融資件数＝農業研修受講人数」として示されており、形式的には達成しているが、3.3.1.2 定性的効果に後述のとおり農業技術支援サービスとして借入農家に提供される研修の要件を満たしたものとはなっておらず、借入農家にとって効果的な研修の実施とはなっていない。本事後評価では、借入農家に提供すべきとされている研修の一部のみの実施であることと、効果発現の実質面を考慮し、農業研修の受講延べ人数の達成度は限定的と判断する。

定量的効果指標の目標達成状況は、表 6 のとおり。審査時に設定された 3 指標に加え、本事業の目的に鑑み「農業研修の受講延べ人数」に占める女性の割合についても指標に加え、情報収集を行っている。女性融資対象者の割合と同様に、女性の農業研修受講者の割合は高いものとなっている。

⁸ 有効性の判断にインパクトも加味して、レーティングを行う。

表 6. 定量的効果指標の目標達成状況

	基準値	目標値	実績値	
	2014 年	2022 年	2022 年	2023 年
		事業完成 2 年後	事業完成 2 年後	事業完成 3 年後
指標 1: 融資回収率 (%)	0	98%以上	99%	99%
指標 2: 女性融資対象者の割合 (%)	0	50%以上	82%	85%
指標 3: 農業研修の受講延べ人数 (人)	0	20 万人以上	611,299	705,557
追加指標				
女性の農業研修受講人数 (年間) (人)	—	設定なし	75,637	80,496
農業研修受講者の女性の割合 (%)	—	設定なし	81%	87%

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供

3.3.1.2 定性的効果（その他の効果）

事業事前評価表に記載の定性的効果「農業金融の深化、農業セクターの発展」を、本事後評価では、インパクトの定性的効果として整理している。PMFIs の農業金融に係る資金仲介機能の円滑化の観点から、以下の 2 つの視点に関して PMFIs に対するヒアリング調査⁹及び借入農家に対する受益者調査を実施し、効果の発現状況の検証を行った。

1) 農業融資業務の運営・管理能力の向上

PMFIs に対するヒアリングによれば、各支店では、本事業の実施以前から小規模・零細農家に対して農業資金の融資が行われており、本事業の農業融資の運営管理は、従来業務と同様に行われている。本事業の実施による、PMFIs の農業融資業務の運営・管理能力の向上に対する効果は特になかった。

2) 農業技術指導の能力の向上

PMFIs が借入農家に対して提供する農業技術指導は、本事業の実施過程を経て、バングラデシュ中央銀行 ACD の監督・監理のもと、以下を内容とする農業技術支援サービス（Technical Support Service、以下「TSS」という。）として定められた。

- 融資契約時の PMFI 支店事務所でのオリエンテーション
- 農業生産サイクルに沿った 5 段階の研修（1. 農業生産計画、2. 育成、3. 成熟、4. 収穫、5. 収穫後）
- コールセンターによる相談への対応

⁹ 本事後評価の現地調査にて、調査対象地をダッカ管区 Narsingdi 県、ラジシャヒ管区 Rajshahi 県、ロンプール管区 Lalmonirhat 県の 3 カ所とし、全 11 PMFIs のうち 7 機関の支店におけるヒアリング調査を実施した。

- モバイルアプリ、ドキュメンタリービデオ、プレゼンテーションによる体験の共有
- 関係省庁との連携による借入農家の技術支援

PMFIs は借入農家との融資契約時にオリエンテーションを行ったうえで、上記の農業生産サイクルに沿った 5 段階の研修を実施することとされている。事後評価時点の TSS 実施状況は、PMFIs へのヒアリングによれば多くの場合、第 2 段階以降は実施されておらず、借入農家にとって効果的な研修がなされていない。PMFIs 支店職員は、TSS に係る能力が十分に備わっているとはいえず、借入農家はより実践的な技術や個別具体的な問題への対応（家畜の予防接種など）に関する支援を必要としている。

3.3.2 インパクト

3.3.2.1 インパクトの発現状況

1) 定量的インパクト

①農業金融の深化

農業金融の深化の面では、バングラデシュの農業融資額は全体として、本事業実施前後の比較において大幅に増加しており、特にマイクロファイナンス機関の農業融資額が、本事業開始当初の 2015 年から 2023 年までの間に、5 倍近くに増加している。このような変化の中で、農業融資に占める PMFIs の割合は低下傾向にあり、PMFIs の農業融資額に占める本事業の融資額は 2～3% 程と低い水準で推移している。このため、「融資に占める PMFIs の割合の上昇」及び「資金需給ギャップの縮小」の観点からは、本事業の貢献は限定的といえる。

表 7. マイクロファイナンス機関の農業融資の事前・事後比較

(単位：百万 BDT)

	事前（2015 年）	事後（2023 年）
本事業の農業融資額	0	6,390
PMFIs のその他農業融資額	119,895	223,305
その他マイクロファイナンス機関の農業融資額	146,355	1,018,485
合計	266,250	1,248,180

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供資料

表 8. PMFIs の農業融資（本事業とその他農業融資の比較）

	本事業	他の農業融資
利率	19%	24%程度
融資金額（BDT）	～200,000	～200,000
返済期間	12 カ月	45 週間程度
据置期間	1 カ月	無し
返済頻度	月次	週次
担保	無し	無し
農業研修	あり	無し

出所：PMFIs 及び借入農家へのヒアリング

②農業セクターの発展

本事業のコンサルティング・サービスとして、ツーステップローン貸付実行完了時に、中間モニタリングのインパクト評価が実施された。当該評価報告書によれば、農家の戸当たり農業粗収益額及び主要農作物別単収は、概ね達成している。一方で、戸当たり生産農作物の種類は、平均 0.5 種の増加であり、未達成であった。

インパクト評価報告書の記載に本事後評価にて実施した受益者調査結果¹⁰を補完し、農業セクターの発展への貢献を以下のとおり整理する。農作物の生産量増加の主な要因は、融資を用いた施肥量の増加、優良種苗の使用、ミルク生産量の増加要因は、乳牛の追加または新規購入、ミルクの生産性の高い乳牛の購入などである。生産量の増加により、借入農家の多くは農業収入が増加している。一方で、借入農家の生産作物の多様化は、PMFIs の TSS の効果が限定的であるため、効果の発現につながるものとなっていない。

表 9. 定量的インパクト指標の目標達成状況

指標	目標値	実績
	2022 年	2021 年
	事業完成 2 年後	事業完成時
戸当たり農業粗収益額（BDT/世帯/年）：		
農作物生産による収益	30%以上 増加	23%
家畜飼育による収益		53%
主要農作物別単収：		
米生産量の増加（Kg/ha/年）	20%以上 増加	13%
野菜生産量の増加（Kg/ha/年）		31%
ミルク生産量の増加（ℓ/世帯/年）		347%
戸当たり生産農作物の種類（種類数/年）	2 種以上 増加	平均 0.5 増加

出所：JICA 提供資料、運営維持管理機関提供資料

2) 定性的インパクト

①農業金融の深化

小規模・零細農家向け融資の認知度・満足度の向上：

1) 定量的インパクト「①農業金融の深化」の項に前述のとおり、マイクロファイナンス機関の農業融資額が、本事業実施前後の比較において大幅に増加している。PMFIs の小規模・零細農家向けの農業融資は、本事業と実質的にほとんど差別化されることなく運営されている。また、特に 2022 年度以降、PMFIs 以外のマイクロファイナンス機

¹⁰ ダッカ管区 Narsingdi 県、ラジシャヒ管区 Rajshahi 県、ロンプール管区 Lalmonirhat 県及び Ghaibandha 県、クルナ管区 Khulna 県及び Jhenaidah 県にて、計 30 件の借入農家へのインタビュー調査を実施（うち 1 件は比較を目的に本事業以外からの借入農家）。インタビュー先の内訳：女性 25 名、男性 4 名、夫婦 1 件。20 代 2 名、30 代 9 名、40 代 13 名、50 代 6 名。

関の融資額が大幅に増加しており、農業融資に占める PMFIs の割合は低下傾向にある。

受益者調査で行った本事業の満足度に関する借入農家へのインタビューでは、融資に対しては全ての回答者が満足、TSS に対しては多くの回答者が満足度は低いという結果であった¹¹。

②農業セクターの発展

本事後評価にて実施した、受益者調査結果をもとに、以下に借入農家の裨益について要約する。

農業生産・生計の向上：作付面積、主要作物の種類、単収、農業粗収益額、栽培技術・手法、収入源の変遷など

- 農業生産は、1) 定量的インパクト「②農業セクターの発展」の項に前述のとおり、融資を用いた施肥量の増加・優良種苗の使用、乳牛の追加または新規購入・ミルクの生産性の高い乳牛の購入などによって向上している。多くの場合、この他の栽培技術・手法には特に大きな変更はない。

生活改善：栄養状況、家計管理、所得水準の変遷など

- バングラデシュの農家では乳牛の飼育を行うことが多く、牛乳は販売のほか自家消費にも供される。借入農家への栄養状況の改善に関するインタビューでは特に、牛乳の自家消費により、子供の栄養状態が改善したという声が多く聞かれた。
- インタビュー先において、家計管理を行っている融資先農家はなかった。
- 借入農家の所得水準は、インタビュー対象農家のほぼ全てが、生産量増加に伴い増加していると回答した。



写真 2. 融資を受けた小規模農家の乳牛飼育の様子（2024 年 5 月、評価者撮影）

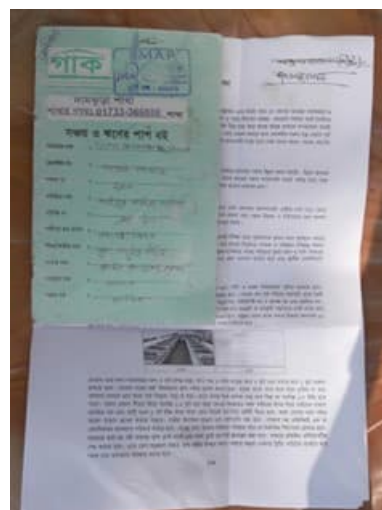


写真 3. 融資を受けた小規模農家の借入手帳と添付の畜産ガイド（2024 年 5 月、評価者撮影）

¹¹ 融資に対しては、本事業より融資を受けた 29 件すべてが、農業生産の向上につながっている等の理由により満足と回答。TSS に対しては、本事業より融資を受けた 29 件中 5 件が、技術的アドバイスや農業分野の専門家の紹介を受けたこと等を有意義と認識している。

3.3.2.2 その他、正負のインパクト

1) 環境へのインパクト

本事業は審査時に、環境への望ましくない影響は最小限であると判断され、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上の環境社会配慮カテゴリCに分類された。事後評価時点においても、運営維持管理機関及びPMFIsへのヒアリング、借入農家へのインタビュー結果から、環境への望ましくない影響は発生していないと判断している。

2) 住民移転・用地取得

該当なし

3) ジェンダー

本事業では、借入者の平均85%が女性¹²であり、そのほとんどが低所得者である。農業・牧畜の生産性が向上し、収入増加につながっている。

4) 公平な社会参加を阻害されている人々、及び社会的システムや規範、人々のウェルビーイング、人権、その他

農業・牧畜の生産性が向上し、収入増加につながっている。小規模・零細農家による、季節農業従事者等の雇用機会の増加につながっている。

表 10. 融資を受けた女性を対象とした LNOB¹³に係る調査結果

項目	主な設問 / 調査結果
案件形成時	サブローンの融資条件の設定において、小規模・零細農家の女性が求める内容が考慮され、適切に反映がなされたか：マイクロファイナンス機関では従来から女性に対する配慮がなされており、既存の融資においても女性を対象としている。SMAP も、女性を主な融資対象として計画されている。 貧困度合いの高い地方がカバーされるように計画されたか：本事業はバングラデシュ全国を対象としているが、特に貧困度合いの高い Gaibandha、Jhenaidah、Khulna 各県の農村地域もカバーされている。
事業実施段階	農業技術指導は、女性が行う農業生産・作業に関する内容に対しても用意され、適切に実施されたか：農業技術指導はほとんどの場合、第1段階として行われる農業生産計画のオリエンテーションと農業・畜産技術のリーフレット配布が行われているのみであり、ジェンダーに関わらず不十分な内容となっている。 融資を希望する女性農家が、融資を受けられなかったケースはなかったか、要因は何か：該当するケースはなく、融資は主に女性を対象に行われている。借入人が主に女性である理由は、農家においても夫は賃労働などのため外出していることが多く、毎週の返済が基本であるマイクロファイナンスでは、回収時に在宅している女性名義としていることによる。
事業効果	女性融資対象者の割合は50%以上を達成したか（効果指標）：同上、融資は主に女性を対象に行われている（融資を受けた85%程が女性）。
その他の	女性のエンパワーメント（口座開設等、金融アクセスの改善など）の寄与に貢献した

¹² PMFIs 及び融資先農家によれば、PMFIs を含めマイクロファイナンス機関は主に、Samity という名称の女性のグループを通じて農業融資の借入先を募っている。週払いの返済を行うマイクロファイナンスにおいては、夫婦のうち仕事・出稼ぎで不在が多い夫ではなく妻が借入れの名義人となるものがほとんどとなっている。

¹³ 誰一人取り残さない（Leave No One Behind : LNOB）の視点に立った設問を設定し、調査を実施した。

項目	主な設問 / 調査結果
インパクト	か：ほとんどの借入農家の女性が、SMAP の融資以前からマイクロファイナンス機関あるいは銀行の貯蓄口座を持っている。従来からマイクロファイナンス機関を通じた金融アクセスがある。 女性の農業活動が増大し、労働負荷に偏りが生じていないか。夫婦間の労働バランスや、夫や家族のサポートを得ることはできているか。本活動で受益した女性を取り巻く環境の変化（研修成果の共有など、行動・意識変容が起きたか等）：ほとんどの借入農家では、収穫期をはじめとした繁忙期に季節労働者を雇っており、女性の農業労働の負担の増大は生じていない。小規模零細農家では多くの場合、夫が商売や賃労働を行い農業以外から生計を確保している。
波及・持続性	（農業従事者の過半数を占める）女性の資金需給ギャップは縮小することが見込まれるか：本事業に関わらず、農家向けマイクロファイナンスは近年、大幅に規模を拡大しており、女性の資金需給ギャップは縮小することが見込まれる。

出所：運営維持管理機関及び PMFIs へのヒアリング、借入農家へのインタビュー

有効性・インパクトのサブレーティングの評価判断：

有効性・インパクトのサブレーティングの評価判断において、主要目的である小規模・零細農家の農業生産性の向上と生産作物の多様化の達成度にウェイトを大きく置いている。本事業の波及効果として想定された「農業金融の深化、農業セクターの発展」は、バングラデシュの農業融資全体の効果として認識されることが適切であると考え、サブレーティングの評価判断においては、本事業の融資が小規模・零細農家の生活改善に結びついていることをプラスとしている。

本事業は、小規模・零細農家への融資と、農業の生産性向上、生産作物の多様化に資する農業技術指導を併せて提供する計画であったが、これらの組み合わせによる事業効果の発現は、限定的である。事業効果の実績は主に、農業融資の提供によるものであり、特に融資を活用した家畜飼育において、生産性向上・所得増加、生活改善の効果が顕著に表れている。農業技術指導の効果は十分なものとはなっておらず、生産作物の多様化の達成度は低い。以上より、本事業の実施による効果の発現は計画と比して一定程度しか確認できず、有効性・インパクトはやや低い。

3.4 持続性（レーティング：③）

3.4.1 政策・制度

本事業の審査時から事後評価時点にかけて、マイクロファイナンス機関を通じた農業融資に関する政策・制度に変更はなく、バングラデシュ中央銀行は「農業・農村金融政策プログラム」のもと、農業融資を継続している。本事業では、ツーステップローンを活用した小規模・零細農家向け農業融資は、貸付実行完了までの事業期間を含め最低15年以上実施することが合意されている。事後評価時点ではリボルビングファンドとして、残りの約5年間、引き続き本事業の農業融資が継続される。

3.4.2 組織・体制

1) バングラデシュ中央銀行

本事業全体としての実施体制は、実施機関である財務省銀行金融機関局からバングラデシュ中央銀行が事業実施を受託し、PMFIs を通じて小規模・零細農家向け農業融資及び農業技術指導を行うという設計がなされている。事後評価時点のバングラデシュ中央銀行の実施体制は、3.1.2.3 内的整合性に前述の農業信用局内 SMAP・Bangla-SHEP Section にて、リボルビングファンドの管理及び PMFIs による農業融資及び TSS のモニタリングが行われている。Bangla-SHEP Section は、局長(Director)1名、Additional Director 1名、Joint Director 2名の、Deputy Director 2名、Assistant Director 2名で構成されている。

2) PMFIs

①農業融資

各 PMFI は従来から農家向けのマイクロファイナンスを行っており、本事業の小規模・零細農家向け農業融資は、PMFIs の各支店が通常業務として行っているマイクロファイナンス全体の運営管理体制のもと行われている。

②農業技術指導

各 PMFI では、表 11 のとおり農業分野の学位を持つ農業技術指導員を配置している。農業技術指導員は、支店職員が借入農家に対して農業技術の研修・支援が行えるよう、指導を行っている。

表 11. 各 PMFI の職員数及び農業技術指導員数（事後評価時点）

PMFI（括弧内は略語表記）	職員数 （百人）	農業技術指導 員数（人）
ASA Bangladesh（ASA）	259	15
BURO Bangladesh（BURO）	103	16
United Development Initiatives for Programmed Actions（UDDIPAN）	56	19
Jagorani Chakra Foundation（JCF）	80	6
Gram Unnayan Karma（GUK）	56	3
RDRS Bangladesh（RDRS）	36	9
Resource Integration Centre（RIC）	26	5
Centre for Development Innovation and Practices （CDIP）	22	11
Sajida Foundation（SAJIDA）	62	9
Manabik Shahajya Sangstha（MSS）	14	12
SKS Foundation（SKS）	34	6

出所：運営維持管理機関提供資料及び各 PMFIs のウェブサイト

3.4.3 技術

1) バングラデシュ中央銀行

バングラデシュ中央銀行では、業務運営ガイドラインに沿って、リボルビングファンドの管理及び PMFIs による農業融資及び TSS のモニタリングを行っている。モニタリング方法が確立しており、オフサイト及びオンサイトのモニタリングを毎年度実施している。オフサイトモニタリングでは主に書面で融資状況の確認を行い、ここからサンプルを抽出したのち、現地視察によるオンサイトモニタリングを行っている。2024 年度は、44 件のオフサイトモニタリング及び 16 件のオンサイトモニタリングを実施済みである。モニタリングでは、メッセージアプリの WhatsApp を活用した、農家グループとの直接的な連絡も行っている。また、PMFIs の能力向上研修の手配も行っている。

2) PMFIs

①農業融資

各 PMFIs では、マイクロファイナンスの管理において以下の融資管理システムを活用している。本事業の農業融資は、他のマイクロファイナンスと併せて、これらシステムを用いて行われている。

表 12. 各 PMFI の融資管理システム

PMFI	融資管理システム
ASA	AMMS Online
BURO	B Banker
UDDIPAN	Infra softtech
JCF	Grameen Communication
GUK	g banker
RDRS	Grameen Communication
RIC	Micro-finance Monitor
CDIP	Microfin 360
SAJIDA	Microfin 360
MSS	Microfin 360
SKS	Micro-finance Monitor

出所：運営維持管理機関提供資料

②農業技術指導

各支店ではマイクロファイナンス担当職員が、農業技術支援サービスガイドラインに沿って、借入農家へ TSS を提供している。支店職員はマイクロファイナンスの運営管理が主たる業務であり、農業の専門性が高いとはいえない。3.3.1.2 定性的効果（その他の効果）に前述のとおり、PMFIs 支店職員が提供している TSS は支援を受ける側の農家にとって効果的なものではなく、質的向上が求められる状況である。この点について、TSS の改善に向けたバングラデシュ中央銀行、PMFIs、DAE、水産畜産省畜産サービス局（Department of Livestock Services、以下「DLS」という。）の協議を行った結

果、4.2.1 運営維持管理機関への提言に示す取り組みを行う考えが示された。関係機関がこれらの取り組みを行っていくことに対して、実施機関である財務省銀行金融機関も前向きな考えであることを考慮し、改善の見通しが高いと判断する。

3.4.4 財務

1) リボルビングファンド

バングラデシュ中央銀行におけるリボルビングファンドの運用状況に、不良債権などの重大な問題なく、計画通り 15 年間にわたりツーステップローンを継続することができる状況である。

表 12. リボルビングファンドの運用状況

(単位：百万 BDT)

	融資額	回収額	残高
FY2016	2,499	-	-
FY2017	3,273	2,499	10
FY2018	4,000	3,273	2,553
FY2019	4,800	4,000	1,554
FY2020	6,300	4,800	4
FY2021	6,390	6,300	44
FY2022	6,390	6,390	4
FY2023	6,390	6,390	4

出所：運営維持管理機関提供資料

2) PMFIs の財務

PMFIs のマイクロファイナンス全体の融資回収率は平均 96%（2023 年度）と高い水準にあり、債権管理に問題が無いことを示している。また、MRA の各年次報告書によれば、PMFIs によるサブローン管理の持続可能性（適格要件や財務健全性）に関して、特に問題は示されていない。

表 13. 各 PMFI の融資回収率（2023 年度）

PMFI	融資回収率	PMFI	融資回収率
ASA	94%	RIC	98%
BURO	97%	CDIP	98%
UDDIPAN	100%	SAJIDA	98%
JCF	98%	MSS	93%
GUK	87%	SKS	99%
RDRS	96%	平均	96%

出所：各 PMFIs のウェブサイト

3.4.5 環境社会配慮

本事業では、PMFIs による農業融資及び農業技術指導の実施により環境規定違反が生じた場合、バングラデシュ中央銀行は融資の返済を求めると規定されて

いる。事後評価時点までに、融資先農業の営農活動における環境規定への違反に関する報告の受領は無い。また、融資契約の際に、借入農家は農業活動における環境規制の遵守について説明を受けていることから、環境規定違反に関して、特に懸念はない。

3.4.6 リスクへの対応

本事業の審査時、ツーステップローンの信用リスクに関して、PMFIs からバングラデシュ中央銀行への返済が遅延した場合の対応は、事業の円滑な実施促進のために結成される運営委員会において協議されることとされている。また、返済能力が無いと判断された場合には、バングラデシュ中央銀行による融資を停止のうえ、延滞額についてはPMFIs が本事業における保証銀行として契約している市中銀行により、元利ともに返済されることが定められている。事後評価時点までに、PMFIs からバングラデシュ中央銀行への返済に遅れは生じていない。

PMFIs では、借入農家からのローン返済遅延、無担保融資であることによるモラルハザードに対しても、以下のように柔軟な対応を行うことにより、ローン回収と借入農家の生計保全の両立が図られており、マイクロファイナンスの持続的な運営がなされている。

- 自然災害やその他の気候要因により借入人が返済できない場合には、生計活動を再生するために、必要に応じて低利の災害ローンを提供。
- 作物や家畜など資産を失いローンを返済できない場合には、ローンを柔軟な条件で再スケジュールを行い、必要があれば利息を免除。
- 家畜については、農家のすべてのローンを返済することができる牛保険制度の利用など。

3.4.7 運営・維持管理の状況

バングラデシュ中央銀行によるリボルビングファンドの運用状況、及びPMFIs の小規模・零細農家向け農業融資の運営状況に、持続性の観点から問題はみられない。

以上より、本事業の運営・維持管理には、農業技術指導に係る技術に一部軽微な問題はあるが、改善・解決の見通しが高いと言える。本事業によって発現した効果の持続性は高い。

4. 結論及び提言・教訓

4.1 結論

本事業は、バングラデシュの小規模・零細農家が抱える農業投入資機材への資金アクセスの制約や農業技術の不足の問題への対処として、小規模・零細農家への農業生産性向上に資するツーステップローン供与、及び借入農家に対する農業技術指導を実施することにより、バングラデシュ全土において農業金融に係る資金仲介機能の円滑化、小

規模・零細農家の農業生産性の向上、生産作物の多様化を図り、もって農業金融の深化及び農業セクターの発展に寄与することを目的に実施された。

本事業の実施は、バングラデシュの小規模・零細農家の農業生産性向上と生産作物多様化の推進に向けた政策、開発ニーズ、日本の開発協力方針と十分に合致しており、妥当性・整合性は高い。本事業のアウトプットである小規模・零細農家に対する農業融資、及びコンサルティング・サービスとして本事業の実施支援、農業技術指導に係る能力向上支援等が計画どおり行われた。事業費及び事業期間ともに計画内に収まったため、効率性は非常に高い。本事業が目的とした、小規模・零細農家向け融資と、農業の生産性向上、生産作物の多様化に資する農業技術指導の組み合わせによる事業効果の発現は、限定的である。事業効果の実績は主に、農業融資の提供によるものであり、農業技術指導の効果は十分なものとはなっておらず、生産作物の多様化の達成度は低い。以上より、有効性・インパクトはやや低い。本事業の運営・維持管理には、農業技術指導に係る技術に一部軽微な問題はあるが、改善・解決の見通しが高いと言える。本事業によって発現した効果の持続性は高い。

以上を総合的に判断すると、本事業の評価は高いといえる。

4.2 提言

4.2.1 運営維持管理機関への提言

バングラデシュ中央銀行及び PMFIs への提言

本事業の PMFIs は、様々な社会課題の解決に取り組む NGO であり、各支店では農家向けのマイクロファイナンスを通常業務として行っている。一方で、農業技術指導は通常業務として行われておらず、本事業の実施を通じて能力強化がなされたが、PMFIs 支店職員が提供している TSS は支援を受ける側の農家にとって効果的なものではなく、質的向上が求められる状況である。こうした認識に基づき、本事後評価の結果として、以下を提言事項とする。

1. 農業省関連部署との連携の再構築：借入農家が求める専門性の高い農業技術指導（生産作物の多様化や家畜の病気への対応など）を提供するためには、農業省農業普及局（Department of Agricultural Extension : DAE）及び水産畜産省畜産サービス局（Department of Livestock Services : DLS）との連携が不可欠である。バングラデシュ中央銀行は、DAE、DLS 及びバングラデシュ農業研究所と覚書を締結しているが、事業実施を通じて、これら関係機関との連携は十分に行われていない。今後のリボルビングファンド残り期間の事業実施において、バングラデシュ中央銀行及び PMFIs はこれら農業省の関係機関との連携を再構築し、効果的な TSS の提供がなされることが望まれる。

また、バングラデシュ中央銀行においては、本事業を担当する農業信用局内 SMAP・Bangla-SHEP Section の取り組みとして、本事業と SHEP プロジェクトとの連携を通じて、PMFIs による TSS の効果向上を図ることが望まれる。

2. **PMFIs の農業技術支援サービスにおける役割の再設定** : TSS の提供における PMFIs の役割は、効率性、有効性、実行可能性の観点から見直しを行うことが望ましい。具体的には、農家に対する専門性の高い技術支援は、DAE 及び DLS との連携によって提供を行い、PMFIs 支店職員は日常業務において、基本的な農業技術や農業機械の使用法、ワクチン接種スケジュール等の説明や、家畜の駆虫キャンプの提供など、可能な範囲で提供可能なサービスの提供を行う。この他、DAE 及び DLS と借入農家との調整、農業資材等の民間企業の仲介役としての活動、農産物市場の情報提供などを行うことも有効であると考えられる。
3. **リボルビングファンド残り期間の戦略的な事業実施** : 本事業の目的に沿った事業実施のあり方として、農業融資は、効果的な TSS を伴い、生産作物の多様化、現地の市場需要と気候に基づいた高付加価値作物、技術と革新的な投入物の使用による生産効率の向上などのニーズに、資金を提供する目的で提供されるものとする。
また、支援対象地域の選定においても、限られたリソースをより効果的に活用する観点から、低所得地域を対象とするなど、絞り込みを行う。
4. **PMFIs 各支店による事業効果モニタリングの強化** : 上記の戦略的な事業実施を通して、PMFIs は、借入農家の伴走支援の役割を担い、事業効果のモニタリングを適切に実施する。バングラデシュ銀行は、PMFIs による戦略的な事業実施を、責任を持って監督する。
5. **農業技術支援サービスのローカライズ** : 上記の改善が加えられた TSS を、PMFIs の既存の小規模零細農家向け融資に対しても広く提供することにより、事業効果の拡大を図る。こうした取り組みにより、本事業のインパクトの達成につながることを期待できる。
こうした取り組みはまた、経済的な面において TSS の実現可能性につながることを期待できる。具体的には、農村のコミュニティにおいて結成されている組合組織（バングラデシュの多くの農村では、Samity という名称でこうした組織が存在している）が DAE あるいは DLS の専門職員を招いて研修等を行う場合、交通費等の費用負担を伴うが、本事業の借入農家以外の Samity に属する農家が参加することにより、農家あたりの費用負担を低く抑えることにもつながると考えられる。
6. **農業生産サイクルや農業以外の生計手段を考慮したローン条件のオプション設定** : 融資の返済頻度の選択肢を増やすことで、より借入農家の農業生産サイクルに合わせた融資の提供ができると考えられる。農作物の栽培、牧畜などの農業生産サイクルに加え、農業以外の生計手段も考慮し、返済頻度として月次に加え、一括返済や据置期間延長の検討を行うことが望まれる。

4.2.2 JICA への提言

なし

4.3 教訓

事業目的に適した参加マイクロファイナンス機関の条件設定

本事業の PMFIs は、様々な社会課題の解決に取り組む NGO であり、農業分野を活動対象としている NGO もあれば、そうではない NGO も含まれる。本事業では、農業技術指導に係る能力強化にあたり、多くの PMFIs において農業の専門性を有する人員の募集から始める必要があり、いわば新しい分野への取り組みを初期段階から始めることが行われた。この結果、本事業の農業技術支援の事業効果は、目標を下回るものであり、改善が求められる状況である。

今後、NGO を介した融資と技術指導を組み合わせた支援の案件形成・実施に際しては、農業分野に重点を置き、かつ農業の専門性を有する十分な人数の職員が在籍しているなど、一定の基準をクリアしていることを、参加マイクロファイナンス機関の条件とすべきであると考えられる。

5. ノンスコア項目

5.1 適応・貢献

5.1.1 客観的な観点による評価

本事業において、JICA の役割・貢献として特筆すべき事項は、該当なしと考えられる。

5.2 付加価値・創造価値

なし

以 上

主要計画/実績比較

項 目	計 画	実 績
①アウトプット	<u>小規模・零細農家農業生産性向上、多様化振興融資</u> • バングラデシュ中央銀行から PMFIs への転貸（ツーステップローン）を通じた小規模・零細農家に対する融資 <u>コンサルティング・サービス</u> • 事業実施支援：貸付管理及び資金管理の支援、融資業務運営ガイドライン作成支援等 • PMFIs 等の能力向上支援の内容：バングラデシュ中央銀行職員の業務運営ガイドライン策定、農業技術普及に係る PMFIs 職員の能力強化等 • 中間モニタリングのインパクト評価実施支援	<u>小規模・零細農家農業生産性向上、多様化振興融資</u> 計画どおり <u>コンサルティング・サービス</u> 計画どおり
②期間	2014年6月～2020年12月 (79カ月)	2014年6月～2021年9月 (88カ月) (Covid-19の影響により、コンサルティング・サービスの実施に10か月間の中断が生じた。)
③事業費		
外貨	9,576百万円	9,643百万円
内貨	1,229百万円 (357百万 BDT)	155百万円 (112百万 BDT)
合計	10,805百万円	9,798百万円
うち円借款分	9,930百万円	9,675百万円
換算レート	1 BDT=1.28円 (2013年10月時点)	1 BDT=1.35円 (2013年～2021年平均)
④貸付完了	2021年9月	